デジモンアドベンチャーゼロ

山田花子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンアドベンチャーゼロ

【Nコード】

N53270

【作者名】

山田花子

【あらすじ】

無印より三年前の話。光ヶ丘の事件に何故、デジモンが現れたかと考えていくうちに思いついたストーリーです。太一ら選ばれし子どもがデジタルワールドとリアルワールドを救った三年前に、実は密かに七人の子とも達と「ダーク12」の呼ばれるデジタルワールド・リアルワールドを征服しようと企むデジモン達の戦いがあった。

登場人物

武之内達樹

小学五年生。竹之内空の兄。自分のことより他人を優先させることをモットーにしている。

ドラゲモン

達樹のパートナーデジモン。明るい性格で社交的。

八神葵

小学五年生。八神太一・ヒカリの姉。強気で男勝りな部分がある。

ドーグモン

葵のパートナーデジモン。大人しい性格。

肥田純太

小学五年生。性格は、冷静で作戦を立てるのが得意。

ヒナタモン

純太のパートナーデジモン。無口。

夜風レイ

小学五年生。性格は、クールで沈着冷静。

ドルモン

レイのパートナーデジモン。昔の青春ドラマに出てきた熱血教師をそのまま持って来たような性格。

水野新太郎

小学六年生。性格は、自分に正直で誠実。

ペギモン

新太郎のパートナーデジモン。おふざけ屋さん。

風林優実

小学六年生。性格は、一度決めたことは最後までやらないと気がすまない曲げられない女。

フェアリーモン

優実のパートナーデジモン。人に気を使う気配り上手。

落合浩人

小学五年生。真面目で冷静。

チヨウチヨモン

浩人のパートナーデジモン。ツッコミ役。

以上です。

登場人物（後書き）

断言します。

ヒカリと太一に姉はいません。

空に兄はいません。

だけど、考えていくうちにデジモンアドベンチャーの世界の接触したいため…こういう風になりました。
すみません。

第一話 デジタルワールドへ PART 1

桜が散り、新学期になって一週間が過ぎるころ光ヶ丘第一小学校に通う竹之内達樹・八神葵・肥田純太はパラパラと雨が降り出す中、下校途中だった。

「急いで、達樹！」

「傘持っていけばよかった」

葵は達樹にそう叫ぶと自分が住むマンションへ走り始める。純太は予め傘を持ってきていたので傘を指し二人の様子を眺めながら歩いていた。

三人はリビンとダイエーとIMAが合併している店の横道を通り過ぎ、大きな通りに出る。左に真っ直ぐに行けば笹目通りである。三人は右に曲がる。路地には、放置している自転車が一輛ある。倒さないように気をつけながら走り、歩道橋へ繋がる階段を駆け上がる。このまま真っ直ぐに行けば、光ヶ丘公園につく。練馬区では一番広い公園だ。

そして、三人が歩道橋を渡り終えた時を見計らうかのように物凄い勢いで雨が降り出して来た。達樹・葵は慌てて自分の家に帰ろうとするが純太が何か叫んで帰るのを遮った。

「あれ…何だろう！」

純太が指を指す。二人は付き合ってられない顔をするが純太が何を指したのか気になり、達樹と葵は純太が指を指す方向を眺めた。

「何も、ないじゃないか！」

達樹がそう叫んだ。でも、純太はそれを構わず指を指す方向へある駆け出しで行った。葵も気になったのか、慌てて純太を追う。暫し呆然とした達樹だが、すぐに気を取り直して葵と純太を追いかける始める。

「自分の家の方向と逆じゃないのか？」

ぼつりと達樹は、呟いたが今はそれどころではないので無我夢中

で二人を追いかける。二人は、光ヶ丘第六小学校の裏にいた。達樹は、雨に濡れているのを忘れて声を掛ける。

「早く帰ろう」

二人は無視して光ヶ丘第六小学校のフェンスによじ登る。無論、光ヶ丘第六小学校の生徒は下校途中だ。達樹はまわりを気にしながら二人に声を掛け続ける。

「不法侵入だっけ？ ダメだぜ。それに、おれ達は第一小だろう？」
それを聞いているのか聞いていないのかわからないが、二人はフェンスによじ登った状態ですぐに第六小学校の裏庭にジャンプした。そして、二人が立っている場所から右の二つ目の木に純太・葵は取りつかれたように歩き始める。達樹は、周りを見てため息をつく。第六小学校のフェンスに上る怒られる覚悟をした。

「純太。葵！」

そう叫んで二人は見向きをしない。純太と葵は、木の幹に右手を置いた。それから、とてもあり得ないことが起きた。その木に大きな黒い空間が空いて、二人を吸いこんでしまったのだ。達樹は、少々の混乱をしながらも黒い空間が消える前に飛び込んだ。

「うわあああ〜」

薄れていく意識で、達樹は自分の叫び声を聞きながらこれからのことを考えていた。

第一話 デジタルワールドへ PART 1（後書き）

光ヶ丘第一小学校から第六小学校は廃校です。

去年、廃校が決定していました。だけど、これは結構前の話だから問題ないです。

…少々、意味不明の文章があると思います。お許しください。

第一話 デジタルワールドへ PART 2

達樹が気が付くと、奇妙なモンスターが達樹の名前を呼んでいた。
「達樹」

「う、うわあ」

モンスターは、お団子みたいな丸い形をしていた。体の色は赤色で、瞳の色は透き通っている水色だった。

「な、何だ。このば、化けモンは…」

「俺はバケモンじゃないぜ。俺、ラックモンってんだ。よろしく！」

「よろしく…。俺、達樹」

「よろしくな！」

社交的な態度に驚きながらも達樹は、ラックモンに挨拶をする。

「な、何なのよ」

葵の叫び声が聞こえた。達樹は叫び音がする方向へ走っていく。
ラックモンもびよんぴよんと飛びながら、ついていく。

葵の目の前には、丸く犬の耳が付いたモンスターがいた。体の色は茶色で、瞳の色は真っ黒だ。

「私の名前は、イリモンだよ。よろしく。葵」

「イ、イリモン？ …わけわかんない」

「葵。そいつは、大丈夫だ。危害を加えないはずだ」

「達樹。それ本当？」

「大丈夫だ。俺には、ラックモンというモンスターがいるからさ」

「…よろしくね。イリモン」

「よろしく」

葵とイリモンは挨拶をした。その時、後ろからガサガサと音を立てながら純太が出てきた。腕に緑色の物体を抱えながら。

「達樹も葵も、パートナーがいるんだ」

「パートナー？」

葵と達樹は声をそろえて聞き返す。

「それに、このモンスターはデジタルモンスターと言っらしい」

「デジタルモンスター？」

「詳しい詳細は、分からないけど…。ここは、デジタルワールドと
いうらしい」

「デジタルワールド？」

「とにかく。前に進まないといけないね」

「そうだな。アニメとか漫画で、こういうところに行った場合はどこ
かに行かないと、元の世界には戻れないよな」

「そうね。達樹」

葵はイリモンを腕の中に抱いた。ラックモンは達樹の頭の上に乗
る。

「ちよつと、ラックモンだっけ？ やめてくれないか」

「いいじゃん。達樹」

ラックモンは達樹の頭の上のジャンプする。達樹はため息をつい
た。

「そういえば。純太のデジタルモンスターはなんていうんだ？」

「クキモンというらしい。それと、デジタルモンスターは略してデ
ジモンというそうだな、クキモン？」

「そうだ」

「それで、僕たちはどうすればいいんだ？」

「それはだな。俺たちを、進化させるアイテム、デジヴァイスを
探して欲しいんだ！」

ラックモンがクキモンに質問しているのに対して、答えを言った。

「デジヴァイス？ 進化って？」

「俺たちデジモンは、進化するたび強くなるんだ！」

「そう。私たちは、今幼年期で弱い」

「じゃあ。デジヴァイスを探して欲しいんだな！ わかった。ラッ

クモン、どこにあるんだ？」

「知らない」

「…じゃあ、どうすればいいんだよ？」

達樹は質問はしたもののラックモンの返事が返ってくることはなかった。

第一話 デジタルワールドへ PART 2 (後書き)

次は残りの四人を登場させます。
いつ更新できるかな…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5327o/>

デジモンアドベンチャーゼロ

2010年11月23日19時25分発行